

池上彰著「小学生から新聞を読む子は大きく伸びる―1日10分の習慣ですごい効果―」

すばる舎 2009年7月27日刊を読む

新聞を読む子と読まない子、人生でここまで差がつく

―世の中が見えている子は、目標も見つけやすい―

1. さまざまな職業の人の生き様を新聞が教えてくれる

(1) 2009年6月、NHKのドラマ「風に舞いあがるビニールシート」が放送されました。女優の吹石一恵さん演じる女性が、国連難民高等弁務官事務所で働くという話です。

(2) このドラマを見て、この組織の活動を知り、「将来は国連の組織で働きたい」と考えた子どももいることでしょう。

(3) テレビや新聞は、子どもにとってハローワークの役割を果たしてくれます。いままで知らなかった職業を知ったり、なんとなく名前だけは知っている職業が実際にどんな仕事をしているのか理解したり。

(4) それによって子どもの将来の可能性は広がります。

(5) 海外での地震災害のニュースを読んで、被災地の救援活動をする国際緊急援助隊に憧れたり、人の命を救う医者になりたいと心に決める子どももいるでしょう。

(6) あるいは具体的な職業でなくても、地震の原理を知って地質学に興味を持ったり、倒壊する建物を見て建築の世界に関心を持ったりする子どももいるかもしれません。

(7) ニュースから感じるものは人それぞれですが、社会の出来事に触れることで、自分の将来を考えるきっかけになり得るのです。

2. 私がNHKに入社した理由

(1) ちなみに私がジャーナリストになろうと決めたのは、小学校6年生のとき、たまたま買った『続 地方記者』(朝日新聞社)という一冊の本がきっかけでした。

(2) 地方の新聞記者の仕事ぶりを描いた本で、他社の記者と激しい特ダネ競争を繰り広げたり、警察より先に犯人を見つけてしまったりする新聞記者の姿を活写していました。これを読んで、「地方記者ってカッコいい!」と憧れを抱いたのです。

(3) 中学に入ると、気象現象への興味が膨らんで気象庁の予報官の道も考えましたが、大学で就職活動のときには、結局、子どもころに描いた地方記者への夢がよみがえり、マスコミへの就職を志しました。

(4) 地方を点々とする記者になるには、全国紙の新聞社か通信社、NHK に就職する必要がありますが、当時はマスコミ各社の筆記試験が同じ日に集中していました。

(5) 7月1日が朝日、毎日、読売、共同通信、そしてNHK。翌日が日経、産経、時事通信でした。ちなみに、当時民放はほとんどニュースの時間がなく、記者の一般公募はありませんでした。

(6) 試験のかけ持ちはできないので、1日は朝日新聞とNHKの両方に願書をひとまず提出。ギリギリまで迷った末に、NHKの筆記試験を受けに行きました。その結果、いまの自分があります。

(7) 私が地方記者に強い憧れを抱いたのは、一冊の本との出会いがきっかけです。

(8) ただ、本を読んでピンとくるものがあったのは、ふだんから新聞を読んで記者の仕事にぼんやりと興味を抱いていたからです。いささか特殊かもしれませんが、私の場合も新聞がハローワークの役割を果たしたのです。

3. 早くから目標が見つければ、学ぶ意欲も湧いてくる

(1) 小学生のうち自分の夢が見えていれば、その夢に向かって早くから準備をすることもできます。

(2) 建築家になりたい子なら、建築物に触れるたびに感動したり発見があったりするはず。デザイナーになりたければ、自分なりにデザインの真似事を始める子もいるでしょう。

(3) 子どもころの夢は、コロコロと変わりますが、こういった経験を繰り返すことで子どもの中に蓄えられていく知識や考える力は、かけがえのないものです。

(4) 目標に向かって自分から積極的に学び、その過程で新たな自分を発見し育てていく。

(5) 人はそうして、自分の望む人生を勝ち取っていく自信をつけていくのではないのでしょうか。

(6) 遅かれ早かれ、子どもは自分の進路について真剣に考えなければいけない時期がやってきます。

(7) 子どもは大人に比べて知識や経験が足りないのですから、夢が変わっても、夢がたくさんあってもいいのです。むしろ、たくさんあったほうが得るものは多いでしょう。

(8)そのためにも、広い世間を見せることはとても意味のあることです。

(9)今日からでも、子どものそばに新聞を置いてあげてみてください。

[コメント]

この通りです。私は、小学生は1日20分、中学生は40分、高校生は60分新聞を毎日読んで考えよう、新聞を読んで批判的なものの考え方を身につけよう、新聞を読んで自分の力でものを考えることのできる人になろう。思慮深い人になろう、新聞を読んで将来の自分を考えよう、新聞をハローワークとして活用しよう皆様強く訴えさせて頂きたく思います。

- 2009年7月11日林明夫記 -